2023.10.3　物流ニッポン　20面

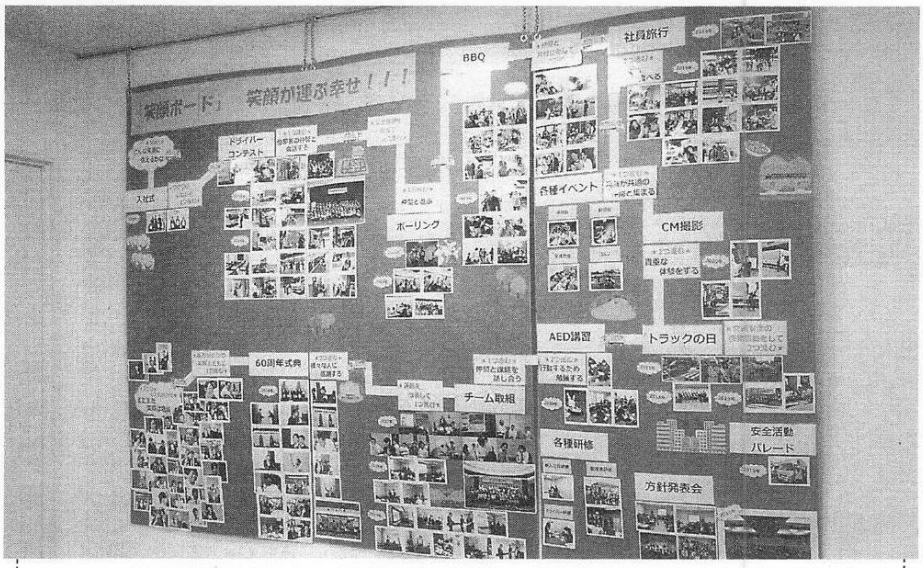
目標達成へ組織を強化

愛知・小牧にセンター構想

吉正運輸倉庫

吉正運輸倉庫（吉野元康社長、名古屋市北区）は、所長クラスの主任を育成するため、職制の役割を明確化した教育による組織強化で、中期目標の2025年3月期の売上高25億円を目指している。

本社を含む12拠点で大型トラックからバンまで55台を運用し、愛知、岐阜、三重の各県で事業を展開。従業員191人を擁し、売上比率はトラック輸送3割、庫内作業4割、その他を流通加工が占める。取扱品目はインテリア、建材、自動車部品を3本柱とし、バランスの取れた経営を特長とする。



従業員の笑顔の写真を貼ったパネルを社内に掲示

25年3月期に向けては、拠点集約を兼ねた物流センターを中部エリアの物流拠点が集積する小牧市に建てる構想に加え、愛知県内に新たな共配網を形成するための拠点整備を検討中。現状、自社保有の物件が1カ所の中で、他の賃料分を新拠点への投資や車庫用地の確保に充て、年10台の増車も計画している。

吉野社長は「リーマン・ショック後から右肩上がりだった売上高は、新型コロナウイルス禍によって落ち込んだものの、20年に小牧の拠点が稼働したことでV字回復できた。今後は、最新の物流サービスを求める荷主に対して効率化や生産性向上、システム化や自動化、DX（デジタルトランスフォーメーション）などの提案に向け、自社のテクノロジーを磨いて次の成長に向けた積極的な投資を考えている」と話す。

人手不足については、一定程度は確保できているものの、庫内作業の主力を担うパート社員の確保が難しい状況にあるため、19年から新卒採用を開始した。従業員構成が男性6に対し女性4となり、女性活用が発展の礎となった。次の展望として、若い力の活用を模索。管理者の育成には、他社への一日訪問研修を取り入れるなど、自身のスキルを高めることができる、入社したくなる教育制度を充実させていく。

「当社の成長の原動力は、性別を問わずに適材適所に配置するとの考え方にあった。社長になって10年が経過し、就任当時に始めた従業員の笑顔の写真を貼ったパネルは、本社の新社屋竣工に合わせて皆にも見てもらえるところに掲示している。今後も顧客と従業員の安心に向け、全従業員がベクトルを合わせ、会社が変わったことを実感できる魅力ある企業を目指していきたい」

（梅本誠治）